会　議　録

1　会議名

令和８年度第１回保倉区地域協議会

2　議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

・上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組の対応（案）について（公開）

・地域独自の予算事業の一覧について（公開）

【自主的な審議】

・令和８年度の進め方について（公開）

3　開催日時

令和８年４月２８日（火）午後６時００分から午後７時１５分

4　開催場所

上越市立保倉地区公民館　研修室

5　傍聴人の数

０人

6　非公開の理由

―

7　出席した者（傍聴人を除く。）

・委　　員：　神村会長、青木委員、榎並委員、佐藤委員、高島委員、
髙橋委員、中島委員、羽山委員、平井委員、八木委員
（欠席者２名）

・資産活用課：　丸山係長、長ケ部主事

・事　務　局：　北部まちづくりセンター
内藤所長、勝島副所長、新保係長、丸山主任

8　発言の内容

【勝島副所長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第８条第２項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【神村会長】

・挨拶

・会議録の確認：佐藤委員、高島委員に依頼

議題【報告事項】上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組の対応（案）について、資産活用課へ説明を求める。

【資産活用課：丸山係長、長ケ部主事】

・資料№.１「上越市公共施設等総合管理計画に基づく取組の対応（案)」に基づき説明

【神村会長】

ただ今の説明に対し、質問等はあるか。

【羽山委員】

孫がスポーツをやっていて体育館を毎日のように利用している。施設は、場所により金額は違うのか。

【資産活用課：丸山係長】

場所により、１時間５００円、７００円など違っている。この違う部分について、市役所の中で検討している最中である。具体的な案については、７月頃から地域協議会で通知したり、紙で掲示し利用者へ周知したりするなど、皆様に早めに情報をお伝えしたいと思う。

【羽山委員】

施設の老朽化や維持管理の問題も分かるが、中学校の部活の面を考えると、学校では部活をしない、地域の人が指導をするということになると、今まで以上にスポーツの面が衰退してしまうのではないか。老朽化で使用料を上げるのは分かるが、そういった面を考えると懸念がある。

【資産活用課：丸山係長】

部活動に関しては、地域クラブに移行を始めたところである。児童・生徒の負担はほとんど変わらないようにしていきたいと考えているし、実際にそのように進んでいる。

【神村会長】

資産活用課では、公民館やスポーツ推進課など、さまざまな課との連携が必要になってくると思うが、市長直結の行政施策の中で、何を優先するのかを含めて協議をされていると思う。

市だけで完結しようとされているが、民間企業や一般の方との連携は考えていないのか。公の資産とはいうものの、手に余るものや利用が可能であれば払下げなどの方法もあり、企業の視点で可能性を考えている経営者もいるのではないか。そのあたりについて、これまでの経緯の中でのお話をお聞きしたい。

【資産活用課：丸山係長】

冒頭お話したように、市の施設は１，０００から６０５まで減ったが、その全てを維持し続けられるのか、維持はできたとしても昭和５０年代に作ったものが多いので、市の財政上、全てを更新することは難しい。これは上越市だけの問題ではなく、全国、どこの自治体でも全部を更新し続けることは無理である。

今、会長がおっしゃったように、建てられた当時とは役割が変わっている施設もある。遊休資産として残しておくよりも、民間の利活用、民間の知恵を借りながら、市の持ち出しを少なくしていくことには積極的に取り組んでいきたいと考えている。また、廃校の利活用にも取り組んでいる。合併前の旧町村に特に多く、壊されず、利活用もされていない。そうした場所について、民間の市場調査を実施し、次につながるように少しずつ動いてきている。皆さんがどこかでお目に触れる機会があると思うので、応援していただきながら見ていただければと思う。

【神村会長】

ほかに質疑を求めるがなし。質疑応答を終了する。

－　資産活用課　退室　－

次第に沿って進める。

議題【報告事項】地域独自の予算事業の一覧について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

・資料「令和８年度地域独自の予算事業　地域自治区別事業一覧表」に基づき説明

【神村会長】

質問、意見を求めるがなし。

剣の舞は１年間地域独自の予算事業を申請しなかったが、継続事業として補助率１０分の９は変わらないということでよいか。

【丸山主任】

地域活動支援事業から続いているものについては、１０分の９ということになっている。

【神村会長】

了解した。

ほかに質問、意見を求めるがなし。

次第に沿って進める。

議題【自主的な審議】令和８年度の進め方について、 事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

・参考№.１「令和８年度保倉区地域協議会の進め方」

資料「令和７年度保倉区地域の声（子育て世代・健康福祉関係者・消防団、体育委員との懇談会）まとめ」に基づき説明

【神村会長】

質疑、意見を求めるがなし。

各町内の子ども会の役員の皆さんと懇談をしていきたいが、役員さんは、子ども会の活動で悩んでおられることや、やってみたいことなど、いくつかあると思うが、保倉区全体でやるという話とは違うと思う。そういった方々の考えを聞きながら、ラジオ体操集会への参加や、１００ｋｍマラソン応援事業への協力などを促す機会になればと考えており、検討していきたいと思う。

もう１点、「谷浜・桑取区地区別まちづくり推進事業」の視察が案として出ている。特に異論がなければ、参考として取り入れたいと思う。

【内藤所長】

谷浜・桑取区のこの事業は、４月２５日土曜日にキックオフとしてスタートさせた。地域協議会が主催、創造行政研究所が協力して運営している。初回は講演会を開催し、約８０名の方にご参加いただいた。講演会では、地域の状況や人口減少の現状、全国的なまちづくりの事例の紹介を聞いていただいた。今後は、月１回程度の住民ワークショップを開催し、その成果発表を９月１２日に行う予定で、多くの住民の方に発表を聞きに来ていただこうと計画している。保倉区の皆さんも都合が合えば来ていただけたらと考えている。

【神村会長】

調整をしながら、できる範囲で少しずつ前に進んでいければと思う。

ほかに意見を求めるがなし。

昨年の話し合いの中で、ラジオ体操集会については、ただ集まるだけではなくイベントをプラスするということで、６時半に集まってラジオ体操を行った後、簡単なゲームを実施する。ゲーム後は、子どもたちが喜ぶような景品を用意するというところまで案が出ている。７月に予定している町内会長連絡協議会の中で、具体的に詰め、８月２日に実施する方向で考えている。１００ｋｍマラソンの応援についても、いろいろなアイデアがあり、町内会で考えてもらえないかという話も出ていた。

今後は、６月頃に子ども会役員さんとの懇談会を計画したい。ラジオ体操は町内会単位で行われていたが、８月のラジオ体操集会に多くの子どもたちから参加してもらうために、町内会に付属する子ども会に声をかけて話し合いをしたいと思う。

今日は、各町内に子ども会が今もあるのか、ないのか、ラジオ体操は町内で行っているのかを皆さんにお聞きしたい。

私から紹介すると、岡沢は、子ども会はしばらく消滅していたが、３年前に復活し、子ども会単独事業として、夏祭りを毎年開催している。今、子ども会の所属家庭は４家庭だが、その皆さんが全町内２４戸に夏祭りの案内を出して、町内会全体で楽しんでいる。町内子ども会ではラジオ体操はやっていない。

【青木委員】

下名柄に子ども会はあるが、子どものいる家庭は２軒だけなので、ラジオ体操はやっていない。

【榎並委員】

下五貫野は子ども会があり、クリスマスなど何回かやってるようである。ラジオ体操については分からない。

【佐藤委員】

上青野は子ども会があり、３名３世帯である。活動は分かりかねるが、補助金は町内から出ている。ラジオ体操は確かやっていなかったと思う。

【高島委員】

石川町内は小学生がいないので、子ども会はない。今、保育園児が２人いるだけである。ラジオ体操は、五野井には子どもが大勢いるが、やっているかどうかは分からない。

【髙橋委員】

下吉野は子ども会があるが、子どもが何人いるかは把握していない。ラジオ体操もや

っているかどうか定かではない。

【中島委員】

小泉に子ども会はあり、７人で活動している。年間で約３万円、町内会から費用を出している。参加率は大変高く、春の花植えにはほぼ１００％参加する。保育園児から赤ちゃんまで出る。夏の抽選会にも子どもが大勢参加するし、防災訓練も子どもはほぼ１００％参加する。消火器の使用訓練も、子どもが中心になり水遊び感覚で行っている。

去年の歩こう会は、広報に力を入れた。子どものいる家庭全部に、資料や予定表を配布したところ参加率が上がった。個人では２６名の方に参加していただいたと思う。

今年も決算集会と春の総会の資料の中に、保倉地区からの周知連絡事項として、夏のラジオ体操にイベントを追加するということも説明した。また、秋の歩こう会については、今回は１００ｋｍマラソンの応援を行うことを説明し、応援もイベントを追加したということを説明してあるので、周知も大事だと思っている。

【羽山委員】

下百々は子ども会があり、小学生が６名いる。ラジオ体操は、一昨年は約１週間行ったが、昨年からは行わないことにした。

【平井委員】

長岡は寂しい状況で、今０歳児が１人いるだけなので、子ども会も消滅している。

【八木委員】

下青野は子ども会があり、人数ははっきり分からない。ラジオ体操はない。緑守る会の関係として、田の生態調査として子どもが活動している。子ども会だけで夏は花火をしたり、正月はさいの神などに来る。

【神村会長】

今、お伺いしたところ、少子高齢化の影響を大きく受けている私たちの地域は、活動を休止している町内が多いという状況だと思う。

私の町内会も補助をしており、そうした支援が子ども会活動の一端として活用されているのが現実だと思う。一方で、ラジオ体操はほとんど行われていない。

小泉はいかがか。

【中島委員】

ラジオ体操は、お寺でやっている。お盆を除き、ほぼ毎日早朝やっている。親御さんもついてきており、結構賑やかにやっている。

【神村会長】

人数がいればそういうことができるが、昔のようにはいかない。昔はさいの神になると、中学生が竹を切って引っ張ったものだが、それもなくなってしまった。

【中島委員】

今は若い人も子どもも、地元の集落のイベントには皆さん積極的に見える。意見も聞いてもそうであるし、実際に参加されている。それが保倉全体になると、若干二の足を踏む傾向が見える。

【神村会長】

今、中島委員がおっしゃったとおり、町内会の行事には参加してくださるが、保倉全体となると、参加しづらい部分があるように見える。そこも課題の一つだと思う。子どもたちにとってどうなのかという視点で考える必要があると思う。大人や保護者はそうかもしれないが、今育っている子どもたちがどうなのか、ないよりはあったほうがいいのではないかという気がする。現状は非常に厳しいが、できる方向も考えていければと思う。ただ、子ども会という組織自体はあることが、最後の助けだと思う。親御さんも、どうしてみようもないと捉えていらっしゃるだろうし、私たちと話し合っていく中で、解決の糸口が少しでも掴めればありがたいと思う。将来的にどうなのかということも含めて、考えてみる必要がある課題だと思う。

【羽山委員】

子ども会の実情は、子どもが動くというよりも、案を立てるのは親御さんだと思う。子どもの視点で考えると、今子どもは忙しく、塾等もあり、毎日ほとんど夜家にいない状態で、今後子ども会の地域的な活動ができるのか、できないのか、どのようになっていくのか。親御さんが子ども会を運営していくのであって、子どもは運営されているような状態だと思う。

【神村会長】

私たちが育った時代とは、ずいぶん様変わりしたことは間違いない。羽山委員がおっしゃるとおり、今の子どもたちは、時間を持て余して、やることがなくて困っている状況ではなく、さまざまな組織に所属して活動しているので忙しい。しかし小泉町内は、ほぼ１００％参加されている。

【中島委員】

花植えや抽選会といったイベントである。お菓子や図書券を配って参加を促している

ところもある。

【神村会長】

参加したくなるような呼び込みも必要ではないかという気がする。

【神村会長】

私の町内では、一昨日の日曜日に町内会の行事としてお花見会をやったところ、子どもが参加してくれた。５、６人だが子どもが来てくれるだけで場のムードは全然違う。そういうことをやることで大人も活性化する。非常にいいことだということで盛り上がっていると思う。

特に意見がないようなので、次に移る。

その他について、事務局何かあるか。

【丸山主任】

・次回協議会：５月２８日（木）午後６時から

ほかに意見を求めるがなし。

・会議の閉会を宣言

９　問合せ先

総合政策部　地域政策課　北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

１０　その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。